【様式】

# 令和8年度　学校マネジメントシート

学校名(　　三重県立菰野高等学校　　)

## 1 めざす姿

<table>
<tr><td colspan="2">(1)めざす学校の姿</td><td>地域から愛され信頼される学校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2)</td><td>育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】</td><td>○自分を大切にし、他者を思いやる心を持つ生徒<br>○基本的な生活習慣やマナー、言葉遣いを身につけ、自ら挨拶ができる生徒<br>○確かな基礎学力を身につけ、何事にも積極的に取り組める生徒<br>○郷土を愛し、地域や社会を支える意欲を持つ生徒</td></tr>
<tr><td>ありたい教職員の姿</td><td>○生徒の生涯にわたる幸せを願い、一人ひとりの夢や目標の実現に向け、目的や方法を共有し、常に連携・協働する教職員<br>○互いに支え合い、学び合うことで授業力・生徒指導力をはじめとする教育力の向上を図り、生徒・保護者、地域や企業等の方々から信頼される教職員</td></tr>
</table>

## 2 現状認識

<table>
<tr><td colspan="2">(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</td><td colspan="2">【生　徒】安全・安心に学習や部活動に専念でき、自分の成長を実感できる学校<br>【保護者】生徒の卒業後の自立に向けた基礎学力と社会性を育み信頼できる学校<br>【地　域】生徒の公共心とマナーを育成し、地域社会と連携し貢献できる学校<br>【企業等】生徒の基礎学力や体力、何事にも積極的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力等、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成できる学校</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待</td><td>連携する相手からの要望・期待</td><td>連携する相手への要望・期待</td></tr>
<tr><td>【保護者】学校の取組や子どもの状況についての共有<br>【地　域】地域に貢献する人材の育成<br>地域行事等への積極的な参加<br>【企業等】社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成</td><td>【保護者】学校における教育活動への理解と協力<br>【地　域】生徒が地域活動に参加する機会の提供<br>【企業等】社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成への協力</td></tr>
<tr><td colspan="2">(3)前年度の学校関係者評価など</td><td colspan="2">○　人前で発表する経験は成長の大切な機会であり、「こもガク」など、生徒が地域活動に参加する機会を継続的に確保することが重要。<br>○　規律を守るよう指導するだけでなく、生徒たちの意見を引き出し、生徒たちが自身で考えて決定できる場面を増やしていくことが大切。<br>○　学校での学習の目的が将来の自己実現のためであることをしっかり伝えるとともに、進路変更に際しては多様な学びの形態があることを伝えることが必要。</td></tr>
<tr><td>(4)現状と課題</td><td>教育活動</td><td colspan="2">○　基礎学力を測定する外部指標の活用により、学習面における生徒の現状や課題は明確となっており、全教職員で共有のうえ、取組が進められている。また、部活動を通じた地域交流や、菰野町と連携した公共事業への協力活動は、生徒にとって豊かな学びの機会となっている。<br>○　学習意欲の低い生徒や、部活動や学校行事に積極的に参加できない生徒、高校生としてのルールが守れない生徒もおり、全ての生徒が学校生活に積極的に取り組めるような手立てや規範意識を高めるための取組が必要となっている。<br>○　多様な教育ニーズを抱えていたり、特別な支援や配慮を必要とする生徒には、それぞれの状況に応じて、保護者や関係機関と連携しながら、きめ細かい対応を行う必要がある。</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| | 学校運営等 | ○「めざす学校の姿」は教職員間で共有されており、教職員は協力して取組を進めているが、取組を一層効果的なものとするためには、課題を焦点化して、高い精度で方向性を一致させていくことが必要である。<br>○ 教職員数が少ないため、個々の教職員の校務の平準化による偏りのない学校運営や、互いに支え合い助け合う同僚性の構築、教職員の多忙化解消に取り組む必要がある。<br>○ 積極的な情報発信や地域との連携により、保護者や地域、中学生等に本校の教育活動への理解を促していく必要がある。 |

3 中長期的な重点目標

| | |
|---|---|
| 教育活動<br><br>【カリキュラム・ポリシー】 | ○基礎力を測定する外部指標の活用により、以下の取組を進める。<br>・ 基礎学力定着のための手立てについて効果検証し、授業改善を進めるとともに、シラバスの内容を再検討する。<br>・ 2学年から3学年にかけての学力停滞を解消し、3年間を通して確実に基礎学力の定着が進むよう、研究を行う。<br>○総合的な探究の時間についての研究を一層進め、生徒一人ひとりが命を大切にし、自他を尊重する態度を育むとともに、自らの将来像を具体的に描くことで学習意欲の向上につながるよう取り組む。<br>○地域の活性化に取り組む地元の方や地元企業との連携、地域行事への参加等を通じて、地域社会の担い手となる人材の育成に取り組む。<br>○生徒会活動や部活動等の生徒が主体的に取り組む活動の促進により、生徒一人ひとりの資質向上と、学校のより一層の活性化をめざす。 |
| 学校運営等 | ○効果的な職員研修や、同僚性を基盤としたOJLの推進により、教職員としての資質を向上できるような組織づくりを進める。<br>○教育課題についての組織的な取組を強化し、職務の平準化と問題行動の未然防止を図ることにより、教職員の総勤務時間を縮減する。<br>○菰野町や地元企業との連携、地域の教育力の積極的な活用や効果的な情報提供により、地域と学校との相互理解を深め、学校運営に対する地域の方の提言や応援の機会を増やす。 |

4 求める生徒像

| | |
|---|---|
| 入学時に期待される生徒の姿<br>【アドミッション・ポリシー】 | ○規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒<br>○毎日の授業を大切にできる生徒<br>○学校行事や部活動、地域活動等に積極的に取り組める生徒 |

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---|---|---|---|
| **学習指導の充実** | (1)基礎学力の定着<br>【活動指標】<br>・外部テストの実施<br>1・2学年2回、3学年1回<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、授業内容がわかりやすいと回 | | ◎<br><br><br><br>※ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 答した生徒の割合<br>90%以上<br>(2)個別最適な学びと協働的な学びの実践<br>【活動指標】<br>・外部テスト等の外部指標を活用し、生徒一人ひとりの習熟度に応じた指導の実施<br>・UDフォントやICT機器を活用するなどの特別支援教育の視点をふまえた授業の展開<br>・グループで協力した課題解決型学習やICTを活用した学校外の方との連携授業、座学におけるペアワーク等の実施<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、授業内容がわかりやすいと回答した生徒の割合(再掲)<br>90%以上<br>・生徒アンケートで、授業で他者と協力して学習を進めることができたと回答した生徒の割合<br>90%以上 | (年度末に記載) | ◎<br>※ |
| 進路指導の充実 | (1)3年間を見通した系統的なキャリア教育の推進<br>【活動指標】<br>・進路ガイダンスの実施<br>1学年12回、2学年15回、3学年16回<br>【成果指標】<br>・年内に就職が内定した生徒の割合<br>90%以上<br>・第一希望の進学先に合格した生徒の割合<br>90%以上<br>(2)社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成<br>【活動指標】<br>・地域や外部人材と連携した取組の実施<br>各学年2回以上<br>・全職員による面接指導の実施<br>年2回(3学年対象)<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、進路指導に対して満足と回答した生徒の割合<br>90%以上 | | ◎<br>※ |
| 生徒指導の充実 | (1)頭髪・服装等の身だしなみ指導の徹底<br>【活動指標】<br>・頭髪服装指導の実施<br>年10回以上<br>・日常的な指導の徹底<br>随時<br>【成果指標】<br>・頭髪服装指導で再指導となった生徒の割合<br>10%以下 | | ◎<br>※ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | (2)安全・安心な環境づくり<br>【活動指標】<br>・いじめ防止活動の実施<br>年2回<br>・いじめアンケートの実施<br>年3回<br>・登下校・交通安全指導の実施<br>月1～2回<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、学校生活に安心を感じている生徒の割合<br>95%以上<br>・いじめの認知件数に対して解消したものの割合<br>95%以上 | | ◎<br><br><br><br><br><br><br><br>※ |
| **人権教育の充実** | (1)教育活動全体を通じた生徒一人ひとりが自分を大切にし、他者を思いやる心を育む教育の推進<br>【活動指標】<br>・人権講演会の実施<br>年1回以上<br>・生徒アンケートの実施<br>年3回<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、人権講演会について満足と回答した生徒の割合<br>90%以上<br>・生徒アンケートで、学校生活に安心を感じている生徒の割合(再掲)<br>95%以上 | | <br><br><br><br><br><br><br>※ |
| **保健厚生・教育相談の充実** | (1)自他の心身の健康を守ろうとする力の育成<br>【活動指標】<br>・各健診や講演会等を通じた保健指導の実施<br>随時<br>・専門家との連携等により「命を大切にする教育」と「生命(いのち)の安全教育」を実施した回数<br>それぞれ各学年1回以上<br>【成果指標】<br>・全ての健診を受診した生徒の割合<br>100%<br>・生徒アンケートで、「命を大切にする教育」と「生命(いのち)の安全教育」について満足と回答した生徒の割合<br>85%以上<br><br>(2)教育相談・特別支援体制の充実<br>【活動指標】<br>・スクールカウンセラーによる相談の実施<br>6時間×36回以上 | | <br><br><br><br><br><br><br><br>※<br><br><br><br><br><br><br><br>◎ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・スクールソーシャルワーカーによる相談の実施<br>月8時間<br>・発達障がい支援員の招聘<br>月4時間<br>・校内の特別支援体制整備に向け、核となる教員が県による研修を受講<br>年15回<br>(3)安全衛生の視点をふまえた美化活動の推進<br>【活動指標】<br>・校内外美化活動の実施<br>年2回 | | |
| 生徒の主体的な活動の推進 | (1)生徒会の意見を反映した取組の推進<br>【活動指標】<br>・生徒が主体となる行事の企画や校則の見直しを行った件数<br>年4件以上<br>【成果指標】<br>・行事や校則の見直しなどについて、生徒の意見を反映した件数<br>年4件以上<br>(2)部活動の充実<br>全国高等学校総合体育大会や全国高等学校総合文化祭をはじめとする大会やコンクール等への出場を目標に部活動の活性化を図る。<br>加えて、地域と連携した取組を促進し、部活動を通じて生徒が成長を感じられる環境をつくる。<br>【活動指標】<br>・地域イベントでのパフォーマンスやボランティア等、地域と連携した取組の件数<br>年5件以上<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、部活動を通じて成長を実感できた生徒の割合<br>90%以上 | | ◎ |
| 防災教育の推進 | (1)防災教育の実施<br>【活動指標】<br>・防災訓練、防災講話・体験等、実践的な防災教育の実施<br>年2回<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、防災教育を通じて防災時にどのような行動をとるべきか理解できたと回答した生徒の割合<br>90%以上 | | |

| 改善課題 |
|---|
| (年度末に記載) |

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 組織運営 | (1)課題の共有と組織的対応力の強化<br>【活動指標】<br>・学年や分掌を超えた生徒の情報共有会議を実施<br>年12回以上<br>【成果指標】<br>・校長による面談等で、教職員間のコミュニケーションが図れていると回答した教職員の割合<br>80%以上 | (年度末に記載) | ◎ |
| | (2)教職員の意見をふまえた業務改善の実施<br>【活動指標】<br>・業務改善提案<br>各学年団および分掌より年1回以上<br>【成果指標】<br>・業務改善提案により改善できた業務の割合 | | ※ |
| 教職員の資質向上 | (1)教科指導力の向上<br>【活動指標】<br>・授業公開週間の設定<br>各1週間を年2回<br>【成果指標】<br>・生徒アンケートで、授業内容がわかりやすいと回答した生徒の割合<br>90%以上 | | ◎ |
| | (2)その他の資質向上<br>【活動指標】<br>・生徒指導や人権、進路指導、保健、ICT、コンプライアンス等に関する研修の実施<br>各学期1回以上<br>【成果指標】<br>・校長による面談等で、校内研修について満足と回答した教職員の割合<br>90%以上 | | ※ |
| 開かれた学校づくりの推進 | (1)生徒会・学校関係者評価委員会・PTA役員会等の意見を反映した学校づくり<br>【活動指標】<br>・生徒会や学校関係者評価委員会等の意見をふまえた改善<br>年2件以上<br>【成果指標】<br>・改善後の調査において、満足と回答した割合<br>80%以上 | | ※ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | (2)地域連携の推進<br>【活動指標】<br>・地域の行事参加や地域と連携した取組の実施<br>年5回以上<br>【成果指標】<br>・取組実施後の調査で、満足と回答した割合<br>95%以上<br>(3)生徒・保護者・地域・中学校等への情報提供<br>【活動指標】<br>・学校ホームページの更新<br>月1回以上<br>【成果指標】<br>・学校関係者評価委員会やPTA役員会等で、「ホームページ等で学校の様子が伝わってきた」と回答した保護者の割合<br>80%以上 | | ◎ |
| 防災体制の整備 | (1)学校危機管理マニュアルの見直し<br>【活動指標】<br>・年度当初に県教育委員会の「学校危機管理下における危機管理マニュアル」に基づき、自校の危機管理マニュアルを見直し、教職員に共通認識を図る。また、必要に応じて年度途中にも見直しを行う。<br>年1回以上<br>【成果指標】<br>・校長による面談等で、学校危機管理マニュアルについて理解できたと回答した教職員の割合<br>100%<br>(2)生徒・保護者への周知<br>【活動指標】<br>・三重県公式防災アプリ「みえ防災ナビ」の周知等、生徒・保護者に防災に関する情報提供を行う。<br>随時<br>【成果指標】<br>・学校関係者評価委員会等における学校の危機管理体制の評価が適切であるとの回答<br>100% | | |
| 働きやすい職場づくり | ※「三重県立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(計画期間:R8年度～R11年度)」に基づき、以下の目標を設定<br>(1)県全体で遵守すべき基準<br>・時間外在校等時間が年360時間・月45時間超の教職員数<br>0人<br>・1人当たりの月平均時間外在校等時間<br>30時間以下<br>・1人当たりの年間休暇取得日数(前年度比増)<br>17日以上(特別休暇等を除く) | | ◎ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・設定した日の定時に退行できた部活動の割合<br>100%<br>・予定どおり休養日を実施できた部活動の割合<br>100%<br>・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合<br>100%<br>(2)県の実施計画および自校の課題に応じた目標<br>(県の実施計画に基づく目標)<br>①業務量の管理に関する目標(量の目標)<br>・1箇月の時間外在校等時間が80時間を超える教職員の人数<br>0人<br>・一人あたりの月平均時間外在校等時間<br>15.0時間以下<br>②健康確保および働きがいに関する目標(質の目標)<br>・高ストレス者と判定された職員の割合<br>9.3%未満<br>・年次有給休暇の平均取得日数<br>17日以上(特別休暇等を除く)<br>・校長による面談等で、精神的不安がないと回答した教職員の割合(相談しやすい職場環境の整備)<br>90%以上<br>・校長による面談等で、仕事のやりがいを感じられていると回答した教職員の割合(教育活動に専念できる環境の構築)<br>90%以上<br>(2)自校の課題に応じた目標<br>①業務効率化による時間創出のための目標(量に係る取組)<br>・部活動における複数顧問制の導入<br>100%<br>・保護者への調査・アンケートの電子化<br>内容等を考慮し適宜実施<br>・職員会議等の会議資料をクラウド上で共有<br>100%<br>②健康管理・働きがいを向上するための目標(質に係る取組)<br>・正副担当者制による休暇が取得しやすい職場環境の構築<br>100%<br>・高ストレス者に対する産業医等による面談実施率<br>100%<br>・ストレスチェックの結果に基づく、職場環境改善策の策定・実施<br>1つ以上<br>・教員が希望する外部研修への参加<br>各教科で年間1回以上 | | |
| 改善課題 | | | |
| (年度末に記載) | | | |

6　学校関係者評価

| | |
|---|---|
| 明らかになった改善課題と次への取組方向 | （年度末に記載） |

7　次年度に向けた改善策

| | |
|---|---|
| 教育活動についての改善策 | （年度末に記載） |
| 学校運営についての改善策 | （年度末に記載） |